

(7) 生涯学習施設

再編方針	<p>◆鎌倉生涯学習センターのホール、ギャラリー機能は、鎌倉地域の既存公共施設用地等に移転し、他機能と複合化することにより、生涯学習を推進する拠点としての役割の充実を図る。</p> <p>◆5地域の学習センター機能（集会室等）は、多世代が交流できる機能として地域拠点校へ複合化する。</p>
------	---

再編内容	<p>短期（H26～H31 対応分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域拠点校選定の検討に合わせ、多世代が交流できる機能の具体的なあり方を検討する。 ・より多くの市民が利用機会を得られるよう、利用時間帯枠の見直しを検討する。
	<p>中期（H32～H37 対応分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉生涯学習センターのホール、ギャラリー機能は、鎌倉地域の既存公共施設用地等に移転し、他機能と複合化した生涯学習の拠点施設として整備する。 ・5地域の学習センター機能（集会室等）は、地域拠点校へ複合化するまでの間、既存施設の老朽化の状況に応じ、適切に修繕することで建物の安全性を確保する。
	<p>長期（H38～H65 対応分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5地域の学習センター機能（集会室等）は、地域拠点校の整備に合わせ、順次複合化するとともに、各行政センターにある学習センターは廃止する。（建替え等による複合化整備までの間、既存施設は存続する。） ・吉屋信子記念館は、建物の文化・歴史的価値を考慮し、今後のあり方を検討する。

再編によるコストの削減効果等	図表 生涯学習施設の規模の推移				
		現状	短期 H31年度末時点	中期 H37年度末時点	長期 H65年度末時点
	施設数	7	7	7	2(5)
	施設面積	9,210㎡	9,210㎡	6,635㎡	4,900㎡程度
	※整備する拠点施設の延床面積は2,500㎡と仮定。 ※施設数の()で示すものは、地域拠点校に集約する学習センター機能の数。				
	図表 生涯学習施設のコスト（累計）				(百万円)
			短期 H26～H31 (6年間)	中期 H26～H37 (12年間)	長期 H26～H65 (40年間)
	従来型コスト	$A=a+b$	1,650.4	3,413.0	14,052.7
	建設	a	0.0	112.2	3,050.0
	管理運営	b	1,650.4	3,300.8	11,002.7
再編後のコスト	$B=c+d+e$	1,650.4	3,547.5	9,658.4	
建設	c	0.0	412.2	1,993.8	
管理運営	d	1,650.4	3,135.3	7,664.6	
借地料	e	0.0	0.0	0.0	
コスト削減効果	$C=A-B$	0.0	-134.5	4,394.3	
削減率	C/A	0.0%	-3.9%	31.3%	

図表 生涯学習施設の配置等



■参考事例：小学校と公民館の複合化

施設概要

施設名 志木市立志木小学校・
いろは遊学館・
いろは遊学図書館
所在地 埼玉県志木市本町一丁目
建物用途 小学校、公民館、図書館
延床面積 13,345㎡
構造・規模 鉄骨鉄筋コンクリート造、
地下2階・地上4階建て
竣工年 平成15年
(南校舎棟は昭和51年)

小学校の既存校舎の一部(南校舎棟)を残し、小学校・公民館・図書館を含む複合施設として整備した事例です。

地域社会との直接的なふれあいを通して、子どもたちの知恵、知識、社会性を育み、子どもたちが自ら学び自ら考える教育(学社融合)が推進されています。

複合化にあたって、十分な安全性が確保されるよう配慮されており、警備員常駐の総合案内所を施設利用者が必ず通る場所に設置し、職員室を図書館と隣接する一般の人の出入りの多い場所に配置するなどの工夫がされています。

外観

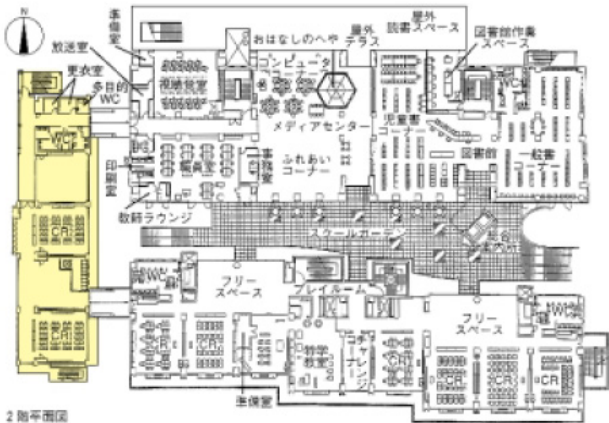


スクールガーデン

*校舎に囲まれたスクールガーデンでは体育の授業も行われる(奥の建物が南校舎)



2階平面図(黄色の部分が南校舎)



出典：みんなの学校をながく・よく使い続けるアイデアー既存学校施設の有効活用に向けて 文部科学省